

## コリント人への第一の手紙 15 章 50～58 節「死は勝利に呑み込まれた」

小池宏明牧師

今日は、コリント教会への第一の手紙 15 章の終わりの箇所から、クリスチャンにとって「死」とは何か、地上の生涯とは何か、求めてみたい。

### \*神の啓示（奥義）が告げられた

51 節以下で、パウロは、「聞きなさい。私はあなたがたに奥義を告げましょう。」と切り出し神の真理を明らかにしている。51 節後半と 52 節「私たちはみな眠るわけではありませんが、みな変えられます。終わりのラッパとともに、たちまち、一瞬のうちに変えられます。ラッパが鳴ると、死者は朽ちないものによみがえり、私たちは変えられるのです。」主なる神様の力強い御業が語られた。私たちキリスト者は、まばたきのするほどの間に「御国を受け継ぐからだ」へと変えられると言うのだ。それは、終わりのラッパが鳴る時、主イエス・キリストの再臨の時に起こる。主の再臨の時に、私たちは、一瞬にして、朽ちないものに変えられ、すでに信仰を全うして死んでいる者も、朽ちないからだに、よみがえるのだ。この出来事は着物を着替えることに例えられている。私たちの「よみがえり」は「古い着物を脱いで、新品の着物に着るようなもの」だ (53 節)。私たちは、新しい着物に袖を通す、そんな楽しみをもって、復活を待ち望むことができる。54 節で死への勝利宣言がなされている。「死は勝利に呑み込まれた。」こうして、主イエス様と同じ復活のからだで、天の御国で、主と共に、すでに召された神の家族、主にある兄弟姉妹と共に永遠に喜び、楽しみ、賛美しながら生きるのだ。

### \*主にある労苦に無駄なし

58 節でパウロは「私の愛する兄弟たちよ。」と親しく呼びかけて、地上を歩むクリスチャンに勧めている。これは、混沌とした時代に生きながら、天の御国の約束を信じるすべてのクリスチャンへの励ましでもある。「堅く立って、動かされることなく、いつも主のわざに励みなさい。あなたがたは、自分たちの労苦が主にあって無駄でないことを知っているのですから。」私たちの人生には労苦がたくさんある。しかし、私たちクリスチャンの労苦は、主にあって、決して無駄ではない。

救い主イエス・キリストを受け入れ、信頼して生きる道を選び取ろう。主のわざに励む第一歩は、心から、よみがえりの主、勝利した救い主を信じることから始まる。主の御声（聖書の御ことば）に聴き従うことから始まる。